

令和5年度 京都府立須知高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p><b>【目指す教育】</b></p> <p>◆日本三大農業教育発祥の地「京都府農牧学校(蒲生野農学校、京都府農学校)」以来の歴史と伝統の継承</p> <p>◆「自主」「規律」「誠実」を校訓とし、心身ともに健康で、自主の精神に富み、根気よく学ぶ力と豊かな情操を身に付けた有為な社会の形成者を育成</p> <p><b>【目指す学校】</b></p> <p>◆地域と共に歩み、信頼され、地域を核として社会を支える人材を育成する学校</p> <p>◆土から食卓までを結ぶ新たな専門教育を拓く学校</p> <p><b>【目指す生徒】</b></p> <p>◆夢と希望を持ち、自ら学び自らを高め、未来を切り拓く生徒</p> <p>◆豊かな感性、人権意識、道徳心を身に付け、社会を担う責任を自覚し、自然、人、社会とつながる生徒</p> <p>◆自らの目標を実現するため、失敗を恐れずに挑戦し、強しなやかな意志と健康でたくましく生きる生徒</p>	<p><b>【成果】</b></p> <p>◆生徒の可能性を伸ばす個別最適な学びと地域とつながる協働的な学びを推進するとともに、府教委指定「京都フロンティア校（地域創生推進校）」を軸とするきめ細かな学習指導、生徒指導、進路指導により、個々の生徒に応じた学力向上、希望進路実現を図れた。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症感染防止の対策として、基本的な感染防止対策の徹底と感染状況に関する情報発信や啓発活動の実施。また、体調不良者や欠席者を正確に把握した早期の対応が感染拡大の防止につながった。</p> <p>◆新たな学習指導要領の趣旨に対応した学習内容や観点別学習状況の評価や評定の具体的な方向性を定めることができた。</p> <p>◆学習端末を効果的に活用するためクラウド型授業支援アプリ「ロイロノート」についての校内研修を実施するなど授業の効率化と指導力の向上に取り組むことができた。</p> <p>◆オンライン学習システム「スタディサプリ」を活用し、学習到達度テストの結果を踏まえた個別の課題配信を教科と連携して進めることができた。また、動画視聴をはじめ、宿題配信、定期考査後の振り返りやアンケート調査、など新たなスタイルの教育活動を推進するとともに保護者との連絡手段として学年通信等を配信することができた。</p> <p>◆令和4年度京都フロンティア校（地域創生推進校）として、地域を支える人材育成を理念に、地域貢献や地域との連携を積極的に推進するため、普通科では京丹波学や京都府農牧学校の研究を通して地域活性化策を考案する取組や食品科学科では、地元食材を活かした加工品開発やウィードの森に関する研究など、地域資源を活用した取組を実施し、フロンティア成果発表やマイプロジェクトアワード、地域の発表会などへ参加することで、本校の取組を広く発信することができた。</p> <p>◆須高祭「文化の部」や球技大会などを3年ぶりに開催することができ、クラスの連帯感や責任感を育むとともに、集団活動を通して、自主的、実践的な態度を育てることができた。</p> <p>◆京丹波町担当課の協力により、2年生の就職希望者を対象にしたインターンシップを実施することができた。生徒は、勤労に関わる体験的な活動を通じて職業に対する理解と関心を高め、将来の職業について考える機会となった。</p> <p>◆広報活動では、SNSによる迅速な情報発信を図るとともに地元中学校と連携した新たな取組を推進することができた。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>◆体系的に整理したスクール・ポリシーを元に組織的かつ計画的な教育活動を推進すること。</p> <p>◆新たな学習指導要領の趣旨に対応した教育内容を充実させるとともにICT教育を一層推進すること。</p> <p>◆個々の生徒の実態に応じた、きめ細かな生徒指導、学習指導等を関係分掌と連携して行うこと。</p> <p>◆家庭学習習慣の定着を図り、自分の将来に向け、高い志を持ち、進路に対して積極的に挑戦する力を育成すること。</p> <p>◆地域からの信頼関係を深め、地域と共に歩み、地域に貢献する教育機関としての役割を高めること。</p> <p>◆規範意識やモラルの高い、心身ともに健康な生徒の育成を進めること。</p> <p>◆ホッケー部員の全国募集により学校の活性化に繋がる取組を進めること。</p> <p>◆部活動の活性化に向け、加入率を高める方法を検討すること。</p> <p>◆京丹波町立中学校からの志願者を増やす取組を一層推進すること。</p>	<p><b>【学校経営主題】</b></p> <p>「生徒の個性や能力を最大限に伸ばす時代の変化に応じた個別最適な学びと地域とつながる協働的な学びの継承」</p> <p><b>【重点項目】</b></p> <p>◆新たな学習指導要領の趣旨に対応した教育内容を充実させるとともにICT教育を一層推進する。</p> <p>◆個々の生徒の実態に応じた、きめ細かな生徒指導、学習指導等を関係分掌との連携を強化する。</p> <p>◆家庭学習習慣の定着を図り、自分の将来に向け、高い志を持ち、進路に対して積極的に挑戦する力を育成する。</p> <p>◆教科横断的な「総合的な探究の時間」の指導体制の充実を図る。</p> <p>◆京丹波町をはじめ地域の関係機関と連携した協働的な学びを展開する。</p> <p>◆農業の6次産業化を推進するための企業や研究機関等との連携を強化する。</p> <p>◆大学等の高等教育機関と連携して各教科・科目の学習内容を充実・深化を図る。</p> <p>◆ルールやマナーを守り、規範意識のある生徒を育成する。</p> <p>◆部活動、農業クラブ活動、生徒会活動を活性化させ、生徒の自主性を育成する。</p> <p>◆ホッケー部員の全国募集と全国大会入賞を目指して学校の特色化を推進する。</p> <p>◆茶道、古典、和知太鼓など伝統文化に係わる教育活動の継承発展を図る。</p> <p>◆学校ホームページ、Instagram、須高通信、須高だより、学校紹介動画などを活用して学校の旬な話題を発信し、生徒募集につなげる。</p> <p>◆報道機関（新聞、京丹波町ケーブルテレビなど）への積極的な情報発信</p> <p>◆地域の小中学校と更なる連携した取組を推進する。</p>

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題			
教務部	新たな学習指導要領の趣旨に対応した取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい学習指導要領における学習評価の充実に向けて研究を進め、情報提供に努める。</li> <li>・昨年度に引き続き、学習用端末を活用した授業に取り組んでもらえるよう計画的に研修を行うとともに、情報提供に努める。</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1547 1182 1592 1241">A</td> <td data-bbox="1592 1182 1630 1241" rowspan="2">B</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1547 1241 1592 1313">B</td> </tr> </table>	A	B	B	年間を通じて研修会等の情報提供をすることはできた。今後は校内での活用方法について、先生方の手法を集約・提供していきたい。
A	B						
B							
生徒指導部	自主活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動に関する情報発信を積極的に行い、加入率の向上を図る。</li> <li>・生徒会役員が中心となり、楽しく有意義な行事が実施できるよう指導する。</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1547 1313 1592 1385">B</td> <td data-bbox="1592 1313 1630 1385" rowspan="2">A</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1547 1385 1592 1455">A</td> </tr> </table>	B	A	A	年度当初の加入率は6割で昨年度と同じで加入率の向上はできていないが、本校の現状としてはやむを得ない状況である。須高祭等の生徒会行事は、有意義なとりくみとなった。
B	A						
A							

分掌 教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
進路指導部	進路指導の充実	・各分掌と協力し、進路学習等を通して高校卒業後の進路の重要性を説き、本校のグランドデザインの「目指す生徒像」の育成に寄与する。	B	各分掌と協力し、進路学習等を通して、特に高校卒業後の進路の重要性を説き、本校のグランドデザインの「目指す生徒像」の育成に努めた。進学・就職に関する進路情報を生徒や教職員へ提供し、生徒それぞれの希望や適性に合った進路希望の設定をサポートできた。
		・各分掌と協力し、進学・就職に関する進路情報をできるだけ多く生徒や教職員へ提供し、生徒それぞれの希望や適性に合った進路希望の設定をサポートする。	B	
保健部	生徒の健康状態を把握した上で適切に対応する。	・学校等欠席者・感染症情報システムや欠席者把握シートを活用し、体調不良者や欠席者を正確に把握する。	B	関係分掌と連絡を密にとり、体調不良生徒の状況把握に努め、必要に応じてSCに繋げた。
		・欠席者把握シートに基づき、関係教員との連携を円滑にする。	B	
人権教育部	人権学習の推進と人権意識を高める取り組みの推進	・各学年ごとに人権学習を実施する。基本的人権を正しく理解させ、学校生活の中で人権を意識した行動ができるように指導する。	A	各学年の人権学習を十することができた。人権学習を通してお互いの人権尊重の思いを持つことができるように指導した。人権委員会では、世界人権デーに合わせてポスター・標語を作成し展示することで人権啓発をすることができた。
		・生徒会人権委員会の活動を充実させる。	B	
農場部	農業クラブ活動の充実	・各種発表会や競技会に向けた活動を推進し、上位入賞を目指す。	B	専門部が積極的に活動し、農業クラブの大会だけでなく、大きなコンテストでの入賞など生徒が活躍する場面が多くあった。農業クラブ近畿連盟の運営を無事に終了することができた。
		・農業クラブ専門部の活動を充実させる。	B	
第1学年部	基礎学力の向上	・学習環境を整え授業に集中する。	B	教室環境を整えることはできたが、学力の個人差が大きく一部の授業で授業規律の乱れが見られた。個別指導には進んで取り組む姿が見られ、個々に応じた課題を地道に克服させていくことが今後の課題である。
		・学習用端末及びスタディサプリを有効に使い、家庭学習の習慣化を図る。	C	
第2学年部	進路実現に向けて主体的に行動し、学力を向上させる。	・自分の適正を知り、卒業後の進路について主体的に考え、具体的展望を持つ。	B	各種進路ガイダンスや情報発信、進路調査等により、自らの進路方針について具体的に悩み検討できる段階には入ってきたが、一部目標が定まらず進路希望が未定の生徒もいるため、本人の適性を含めた進路指導を推し進めていくことが今後の課題である。
		・希望進路の実現に向けて情報収集に努め、多様な可能性を比較検討できる力を養う。	B	
第3学年部	社会人基礎力を高める（目指す生徒）	・自らの課題を設定し、自律的な思考力を身に付ける。	B	自己の進路実現に向けて、計画的かつ自律的に取り組むことができた。須高祭や受験などを通して、クラスを越え学年としてまとまる意識を高めることができた。また、最高学年として下級生をリードすることもできた。
		・自らの言動に責任を持ち、お互いに認め合える集団をつくる。	A	
事務部	学校経営という視点を持った予算の執行	・特色ある学校づくりを進めるため、各分掌・教科や各種事業担当等と積極的に連携を図り、財政的な面から学校運営の一翼を担う。	B	各分掌・教科と連携し、適切な予算執行に努めた。老朽化した施設設備の維持修繕と、学校の特色化・学力向上推進のための環境整備を、限られた予算の枠で両立していくことが継続的な課題である。
		・学力充実・向上のための予算の重点的な措置を行う。	B	

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
国語科	「ことばの力」を基軸とした基礎学力定着と学力伸長	・実社会に必要な国語の知識・技能の定着を図り、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	A	漢字テストや古語テスト等を中心に、音読や暗記の課題に取り組みさせることで、国語常識の定着について一定の成果を上げることができた。また、小論文の取り組みを行い、文章の書き方を身につけさせた。加えて、学習用タブレットを活用し、基礎学力の定着を図るとともに、考えを広めたり深めたりする授業を展開できたが、生徒の思考力・判断力・表現力を十分向上させるまでには至らなかった。
		・互いの主張や論拠を吟味し、考えを広めたり深めたりといった「話すこと・聞くこと」に関する授業を展開し、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。	B	
地歴公民科	進路実現に向けた学力向上を目指す。	・難関大学等、進路希望に応じた個別指導をきめ細かく行う。	A	個別指導をきめ細かく行い、希望進路実現に貢献できた。また、新しい学習指導要領に即した定期考査の問題作成をすることができた。主体的・対話的な授業が不十分だった。
		・暗記だけでなく思考・表現力を培うことができるよう、定期考査を工夫する。	A	
数学科	授業『改善』	・3観点評価に沿った授業展開に取り組む。	B	3観点を意識した授業改善を行ったが、評価方法をより改善する必要がある。また、暗記型の学習に留まっている生徒も一定数見受けられる。
		・新たな指導法に関する情報収集、共有を行い、指導改善に活かす。	A	
理科	新学習指導要領に沿った評価方法、授業展開の構築	・観点別評価の方法を教員間で共有し、それを活かした授業展開及び評価方法の工夫を行う。	B	観点別評価の方法について、特に「学びに向かう力・人間性等」に関してある程度の方向性を見出すことができた。授業進度の関係から、対話型授業はあまり実施することができなかった。
		・スタディサプリやロイロノート等のICT教材を積極的に活用し、生徒のより深い理解に繋げるための授業展開を構築する。	B	
保健体育科	健康の増進と体力と精神力の向上	・適切な運動負荷により、体力と精神力を向上させる。	A	体づくり運動については、取り組みをしっかりとやり切らせて体力の向上につながった。運動に親しむまではいけない集団もあった。酷暑の中で持久走など実施し、適切でない運動をさせることがあった。
		・選択授業を通して生涯を通じて、自ら計画し運動に親しめるよう指導する。	B	
芸術科	自己肯定感を高め、粘り強く取り組む力や挑戦する力を培い、実技能力を向上させる。	・生徒の良い所を積極的に伝え、生徒の自己肯定感を高める。	A	生徒の良いところや成長を、授業中のやり取りやふりかえりシート等を活用して教員から常に伝えることができた。制作や練習等において個々の能力や集中力にはばつきはあるが、より具体的な目標を設定することで、一人ひとりが自信を持って活動に取り組み芸術を楽しめるよう内容を充実を図りたい。
		・曲や作品を仕上げる過程において、毎時間の目標を定め、試行錯誤を繰り返し、臆せず挑戦し続ける力を身に付けさせる。	B	
英語科	基礎学力の定着と進路実現に向けた学力の伸長	・ICTを効果的に活用し、基礎・基本の理解促進を図る。	A	生徒の一人一台端末を用いて発表活動をしたり、発音の練習をしたりと効果的な活用ができた。また、コース別授業の利点を最大限に生かし、個別最適な学習方法を目指して、生徒の実態に応じたきめ細やかな指導ができた。
		・少人数授業の利点を生かし、丁寧な指導を充実させる。	A	
家庭科	生活を主体的に営む力の育成	・生活の中から題材を選び、授業と生活の関連性を感じられる授業を展開する。	B	生活の中で課題を発見し、知識技術を活用し問題解決につなげる学びにすることができた。すべての分野でそれができることが課題である。
		・基礎的知識・技術の習得に向けた題材を設定する。	A	
農業科	専門的な知識と技術を身に付けさせる	・より具体的で分かりやすい授業を展開する。	B	資格取得の取組は例年通りできた。合格率を高めること、さらに上級の資格・検定への挑戦を促す指導をする必要がある。
		・資格取得を一層推進する。	B	

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
情報科	情報技術の学習を通じて、情報社会を生き抜く能力を育成する。	・コミュニケーションの手段としての情報の特性を理解し、円滑に活用する能力を育成する。	A	文書作成ソフト、表計算ソフトの活用を通して情報機器の円滑な活用能力を育成することができた。個人情報保護などの分野について授業で重点的に取り上げたが、IDやパスワードの安全な使い方については、一通りの説明はしたもののすべての生徒が適切に利用する段階には至らなかった。
		・個人情報や知的財産権の保護など社会的責任を伴う問題についての理解と自覚を養う。	B	
総合的な探究の時間（1年）	「京丹波学」をとおして、京丹波町や須知高校の魅力を再発見し、継承する力を培う。	・京丹波町の歴史・文化・自然・環境・産業・観光・スポーツ等について学び、理解を深めるとともに、地域社会の課題を考察する。	A	農牧資料館の見学により須知高校の歴史を通して地域の歴史や文化を学ぶことができた。さらに、京丹波町の役場や社会福祉協議会の職員を外部講師として迎えた講義・講演を通して、京丹波町の現状を知り、課題に気付き、考察することができた。
		・須知高校と京丹波町の関係性について学び、須知高校が地域社会に貢献する方策を考察する。	A	
総合的な探究の時間（2年）	課題の発見・問題解決の能力や自己表現力を身につける。	・生徒が自ら立てた課題の解決に向けて、主体的・協働的に学習を進める。	B	探究活動の一連の学習を学ぶことができたが、主体性を育むことが不十分だった。他府県の高中生や大学生との交流により探究活動を進めることができたが、地域住民との連携ができた生徒は一部だけであった。
		・情報収集、整理、分析やグループワーク、プレゼンテーション作成等を通して、自身の考えを表現し、まとめていく機会を作る。	A	
総合的な探究の時間（3年）	自己の在り方や生き方を見つめさせ、将来に対する展望を持たせる。	・様々な社会問題に関心を持ち、これから社会にはばたいていく身として、問題解決に向けて何ができるかを考え、実行に向けたプランを計画する。	B	様々な場面で社会に貢献できるような力を培うため、周囲にわかりやすい言葉で自分の思いを伝えることに挑戦した。面接練習や自己PRの練習にもつながり、主体的・意欲的に自己の在り方や生き方を考えることができた。また、自己の経験を振り返りながら、今後に繋げることができた。
		・希望進路の実現に向けた取組を進めるとともに、働くことの意義や目的を学ぶ取組を通して、望ましい職業観・勤労観を育み、自己の在り方や生き方を探る。	A	

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆日々ご努力いただいていることに感謝する。次年度の入学生も少なく生徒数減少が大きな課題である。全国的な傾向もあるが生徒数減少に歯止めがかからない。</li> <li>◆学校公開などにおける中学生・保護者アンケートなど、もっと深い分析を行い、さらなる改善や見直しが必要ではないだろうか。</li> <li>◆ホッケー部、食品科学科の取組など全国レベルの活躍は素晴らしい成果を収めている。部活動の活性化に繋がられるよう支援していきたい。志願者確保のため、京丹波町の行事等も活用し、特色ある教育活動の成果や小規模校ならではの魅力を一層、効果的に発信してもらいたい。</li> <li>◆少人数で1人1人に行き届いた授業が行われている。部活動や食品科学科の取組など、生徒は充実した高校生活が過ごせている。</li> <li>◆ホッケー部については、他府県からの希望者も複数いるが、他の高校に流れている。府や町、住民が一体となって、寮や下宿を設置するなど対応が必要ではないか。</li> <li>◆中学生と高校生が交わると、その学校に親しみを感じることもあるので、部活動における中高連携や食品科学科の出前授業における連携など、今後も継続して欲しい。</li> <li>◆地元の高校への入学は、時間を有効活用することが利点になる。高校では放課後の部活動などの取組を強化して欲しい。</li> </ul>
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆体系的に整理したスクール・ポリシーをもとに組織的かつ計画的な教育活動を推進する。</li> <li>◆新たな学習指導要領の趣旨に対応した教育内容を充実させるとともにICT教育を一層推進すること。</li> <li>◆個々の生徒の実態に応じた、きめ細かな生徒指導、学習指導等を関係分掌と連携して行う。</li> <li>◆家庭学習習慣の定着を図り、自分の将来に向け、高い志や目標を持ち、進路に対して積極的に挑戦する力をつける指導をする。</li> <li>◆地域からの信頼関係を深め、地域と共に歩み、地域に貢献する教育機関としての役割を高める。</li> <li>◆規範意識やモラルの高い、心身ともに健康な生徒の育成を進める。</li> <li>◆部活動や普通科の探究学習、食品科学科や課題研究の取組を活性化すると共に、その活動を通じた中高連携による生徒間交流を積極的に行う。</li> <li>◆ホッケー部員の全国募集により学校の活性化に繋がる取組を進める。</li> <li>◆部活動の活性化に向け、加入率を高める方法を検討する。</li> <li>◆京丹波町立中学校からの志願者を増やす取組を一層推進する。</li> </ul>
---------------	--